

調査速報

国内新車販売統計（2016年11月）

車検更新車両の増加に伴う買い替え需要の拡大が
続き、16年度国内新車販売は前期を上回る公算

主任研究員

深尾 三四郎

045-225-2375

fukao@yokohama-ri.co.jp

要約

- 車検更新車両の増加に伴う買い替え需要の拡大を背景に、国内販売（季調値）年率500万台超えが続く。
- 健全な在庫水準が続く中、生産は堅調に推移。しかし、欧米中への輸出減速懸念には引き続き要警戒。
- 中古乗用車輸出台数には持ち直しの動きがみられる。ロシア向け輸出に回復の兆し。

1. 11月の国内新車販売台数は季節調整済年率換算値で550万台と4か月連続の500万台超え

12月1日発表の11月の国内新車販売台数（登録車+軽自動車、貨物車含む）は前年同月比7.4%増となり、季調済年率換算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)でみた11月の販売台数も前月比1.5%増の550万台と4か月連続で年率500万台超えとなり、持ち直しの動きが続いている（図表1）。この増勢の背景には、一部メーカーの量販モデルが車検更新期を迎えたことによる、買い替え需要の発生が挙げられる（図表2）。継続検査件数（車検）は8月以降、前年超えが続き、3か月後方移動平均値でみた車検の季調値は増加トレンドが続いている。とりわけ、初回（3年目）車検更新車両の台数が大きく（図表3）、これは一部メーカーの基幹モデルがちょうど車検更新期を迎えていることが背景にある。4～11月の新車販売台数の平均SAARは500万台と15年度実績（494万台）を上回った。

足元の内需の強さ（SAAR550万台）が3月まで続くとなると、16年度（16年4月～17年3月）の国内新車販売台数は517万台となる見通しであり、前年度実績及び自工会予測（485万台）を上回ることになる。

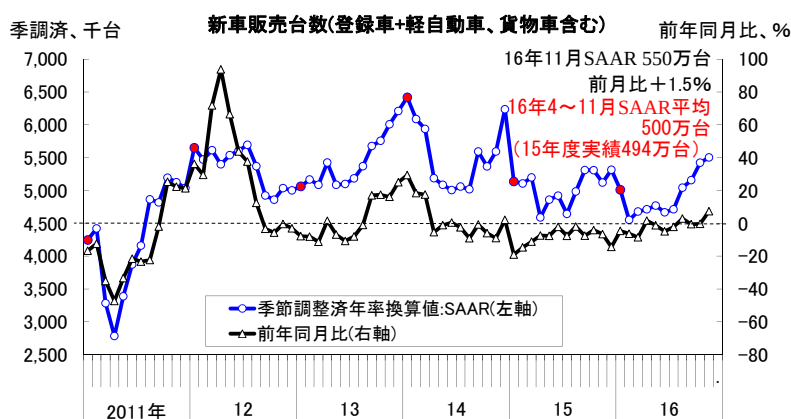
内訳をみると、11月の乗用車（登録車+軽）販売台数のSAARは前月比1.3%増の460万台となり（図表4）、このうち登録乗用車は同5.4%増の313万台と増加する一方（図表5）、軽乗用車の販売台数（SAAR）は前月比6.5%減の147万台となり（図表6）、登録乗用車の販売の増勢が続いている。

貨物車（普通+小型トラック）販売台数の11月のSAARは前月比3.0%増の43万台となったが、3か月後方移動平均で見るトレンドは横ばい推移で、販売に勢いは感じられない（図表7）。

鉱工業指数をみると、10月の生産は2か月連続で上昇した。出荷の伸びが強かったため、在庫は大きく減少し、健全な水準が続いている。年初に発生した愛知県の部品会社の工場爆発事故に伴う減産分に加え、熊本地震の減産分を6月以降の挽回生産に振り向けていることと、輸出の増加（後述）が増産の背景にある。米欧中において新車市場がピークアウトすることによる、輸出減速が国内生産への下押し圧力となるリスクは依然として残るが、内需持ち直しを下支えに、生産は当面堅調に推移するものとみられる。

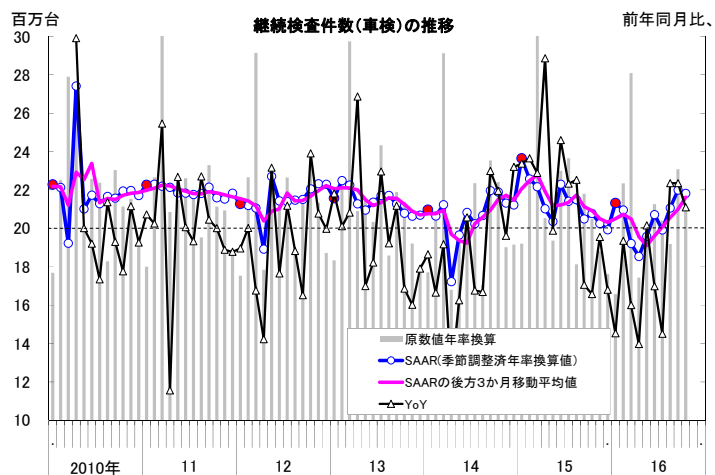
中古乗用車の10月の輸出台数（SAAR）は2か月連続で増加した。輸出金額は前年比2桁%の減少が8か月も続いており、中古車輸出市場を取り巻く環境は引き続き厳しいが、台数面で持ち直しの動きが出始めていることは明らかな材料である。中でも、ロシア向け中古車輸出に回復の兆しがでており注目である。

図表1 国内新車販売（SAAR）は5か月連続の増加



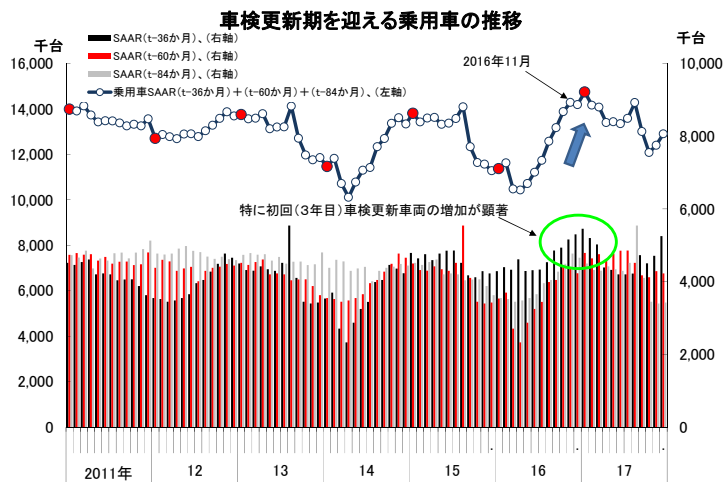
注1: 赤塗りメーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表2 継続検査件数(車検)の増加基調が続く



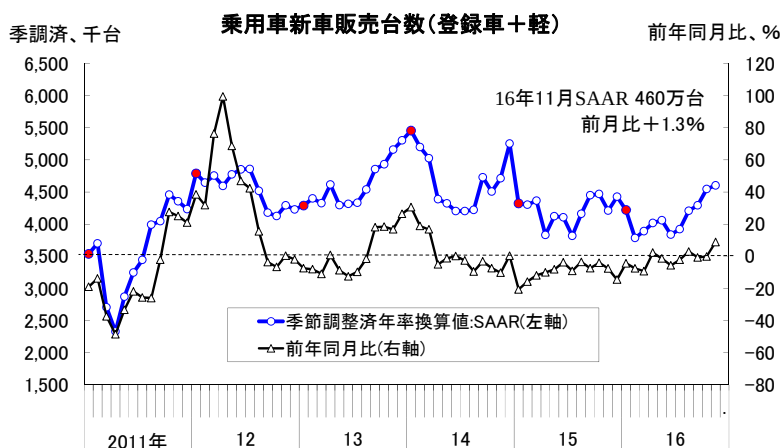
注1: 赤いマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARはX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が算出。
出所: 国土交通省のデータを基に作成

図表3 特に初回車検更新車両の増加が顕著



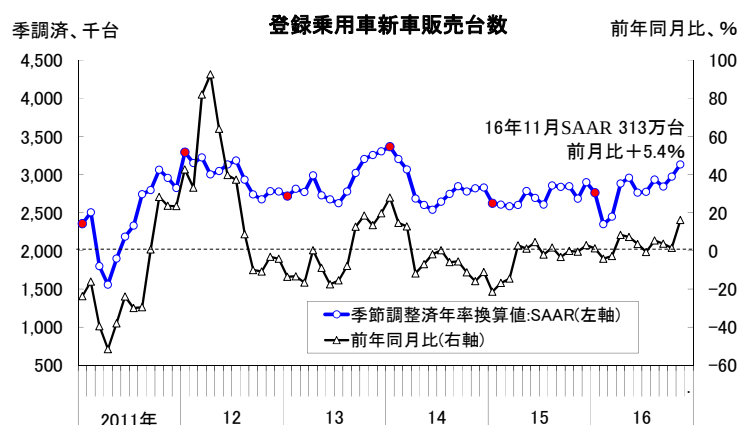
注1: 赤いマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARはX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が算出。
出所: 日本自動車販売協会連合会のデータを基に作成

図表4 乗用車販売(SAAR)は5か月連続の増加



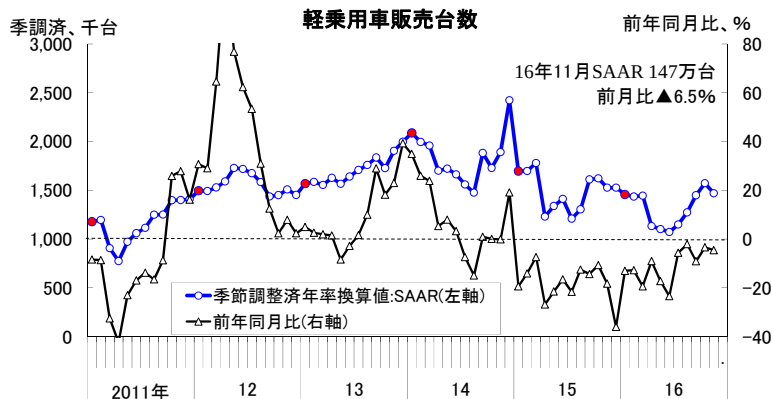
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会及び全国軽自動車協会連合会より作成

図表5 登録乗用車販売は前月比増加



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

図表6 軽乗用車が5か月ぶりに減少



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 全国軽自動車協会連合会より作成

図表7 貨物車販売は一進一退の推移



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

2. 10月の乗用車生産指数は2か月連続の上昇：出荷の伸びが堅調で在庫は大きく減少

鉱工業指数（速報値）を見ると、10月の乗用車生産は2か月連続の上昇となったが、出荷の伸びが堅調だったため、在庫水準は大きく低下した。在庫循環図上では^(注)、9月に続き10月も乗用車生産は「意図せざる在庫減局面」にあり、在庫は健全な水準を維持している（図表8）。年初に発生した愛知県の部品会社の工場爆発事故に伴う減産分に加え、熊本地震の減産分を6月以降の挽回生産に振り向けていることや、輸出の増加（後述）が増産の背景にある。マクロ景気の悪化を起因とする海外での自動車需要の減速懸念が払しょくできないことから、乗用車生産に対する下方圧力が高まるリスクは依然として残るが、在庫水準が健全である中、国内需要が持ち直しているため、生産は堅調に推移すると考えられる。

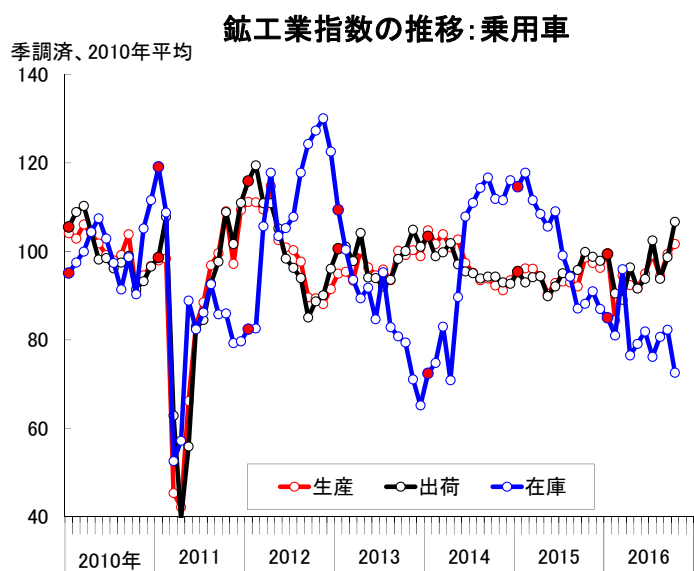
図表9～11では鉱工業指数から、普通、小型、軽乗用車別の各指数（生産、出荷、在庫）の推移と在庫循環図を示している。10月の普通乗用車の在庫（季調値）は3か月ぶりに減少した。生産活動は「在庫積み増し局面」にあり、メーカーは需要増加に備え在庫を積極的に積み増す状況となっている。

小型乗用車の在庫は5か月ぶりに減少した9月から一転、10月は増加した。生産活動は「在庫調整局面」とどまっている。引き続き、減産圧力が強い状況にある。

三菱自動車水島製作所の稼働が7月に再開されたこともあり、軽乗用車生産は持ち直しの動きが続いていたが、10月の生産指数は低下した。出荷は伸びたため、在庫は減少した。生産は「意図せざる在庫減局面」に止まっており、在庫水準は適正である。

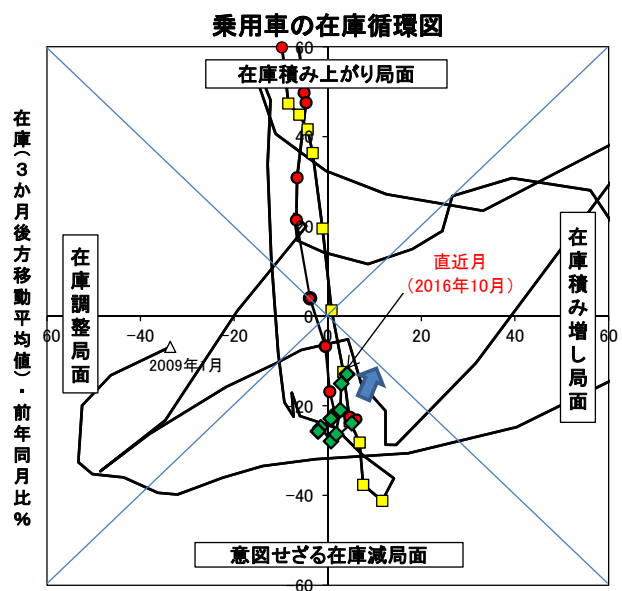
（注）新モデルが発売されるタイミングで乗用車の出荷と在庫は大きく振れるため、各月の出荷・在庫（原数値）を3か月後方移動平均で均してから前年同月比と比較し、それぞれ変化率をX軸（出荷）とY軸（在庫）でプロットしている。

図表8 10月の生産指数は2か月連続の上昇



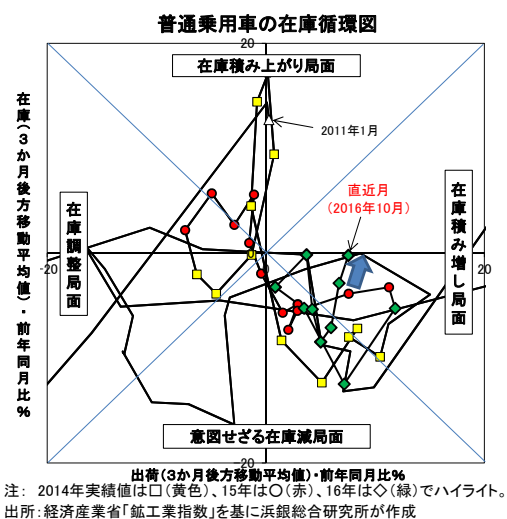
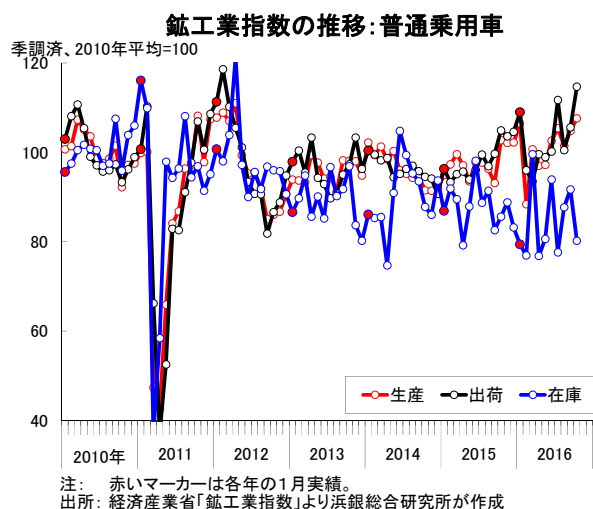
注： 赤いマーカーは各年の1月実績。

出所：経済産業省「鉱工業指数」より浜銀総合研究所が作成

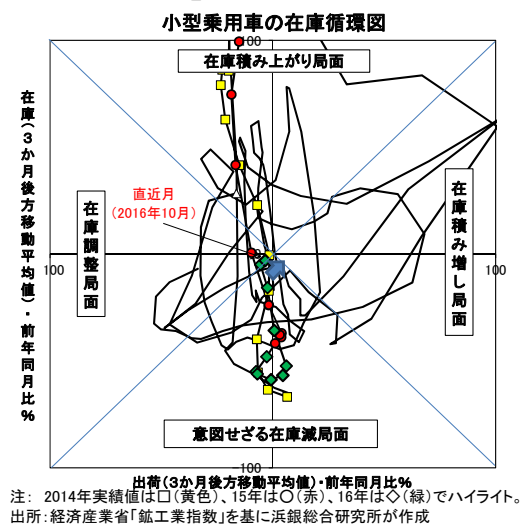
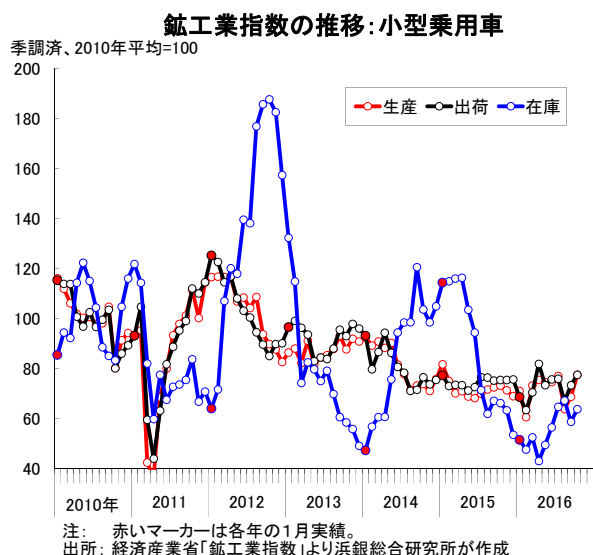


注：2014年実績値は□（黄色）、15年は○（赤）、16年は◇（緑）でハイライト。
出所：経済産業省「鉱工業指数」を基に浜銀総合研究所が作成

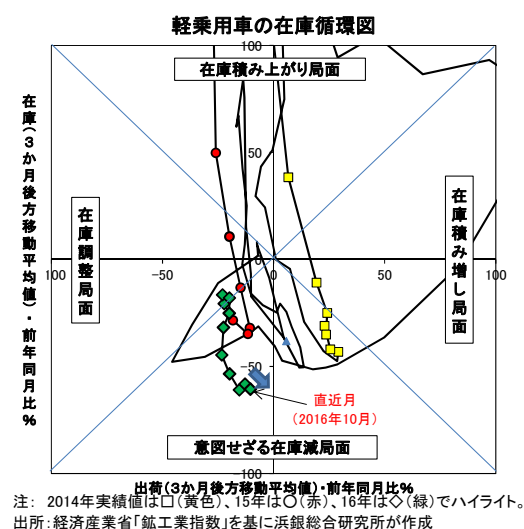
図表9 普通乗用車の生産は「在庫積み増し局面」が続く



図表10 小型乗用車の在庫は増加:「在庫調整局面」が続く



図表11 軽乗用車の在庫は大きく減少:「意図せざる在庫減局面」が続き、在庫水準は健全



3. 10月新車乗用車輸出（季調値）は2か月連続の増加

11月30日に公表された10月の乗用車輸出台数（軽乗用車と中古車を除く）は前年同月比4.2%増となり、SAARも前月比4.1%増の430万台と2か月連続で増加した（図表12）。このところ大きな幅で一進一退が続いているが、3か月後方移動平均値でみたトレンドは緩やかに持ち直している。主要仕向け地別でみると（図表13）、中東及びASEAN向け以外への輸出（SAAR）が増加したことが背景にある。とりわけ、米国向け輸出が堅調である背景には、販売が好調なSUVモデルの輸出が増加したことがある。

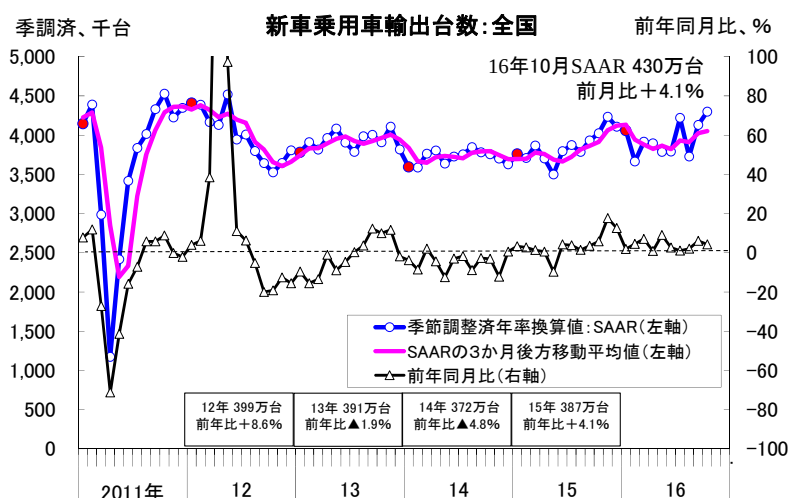
日本にとって最大の輸出先である米国の新車販売台数（SAAR）は、10月に前月比1.0%増の1,803万台（当社試算）となった（図表14）。16年に入ってから一進一退の不安定な動きが続いている。ここ2か月、需要は伸び続けているが、メーカー各社による販売奨励金の積み増しが続いていることから、脆弱性の高い販売増加が続いていると言えよう。長らく拡大基調にあった米国新車市場はいよいよ「潮目が変わった」可能性が高く、同国向けの輸出がこの先、一段と切り上がって、輸出の大きな押し上げ要因になると期待するのは難しい状況だ。

米国に次ぐ主要仕向け地である欧州では、10月の販売台数（SAAR）は前月比5.3%減と5か月ぶりに増加した9月に対し、10月は大きく減少した。同月の3か月後方移動平均値は減少に転じており、トレンドには頭打ち感がある（図表15）。米国同様に欧州の新車販売も16年に入ってから上昇力に欠ける重い展開が続いており、今後更に上向いていくと予想するのは難しい。

最後に、中国の10月の乗用車小売台数は6か月連続で前年同月比2桁増と堅調だが、その伸びは鈍化し、流通在庫に過剰感がでている（図表16）。乗用車販売台数（生産に近い工場出荷ベース）に目を向けると、10月のSAARは前月比1.5%増となり、3か月後方移動平均値で見る増加基調は続いている（図表17）。中国の内需は堅調に推移しているが、流通在庫に過剰感が出始めたことから、目先、同国での自動車生産及び日本からの同国への輸出に下方圧力がかかろう。目下、本年末に終了予定の中国政府による小型車減税措置が延長される可能性がでているが、駆け込み需要が足元の好調な販売の背景にあり、減税が継続されたとしても、駆け込み需要の反動減が強い逆風となり、内需が減少するリスクは依然として大きい。従って、中国向けの輸出に関しても、楽観できる状況ではない。

上記のように、米国および欧州の新車市場の減速及び中国での内需減少懸念から、今後、日本からの自動車輸出に対し下方圧力が高まる可能性がある点には引き続き要警戒である。

図表12 10月乗用車輸出（SAAR）は2か月連続の増加



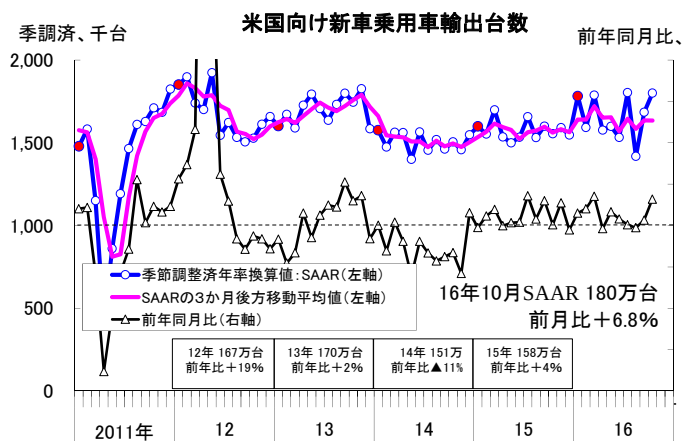
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

図表 13 中東と ASEAN 以外への輸出が増加

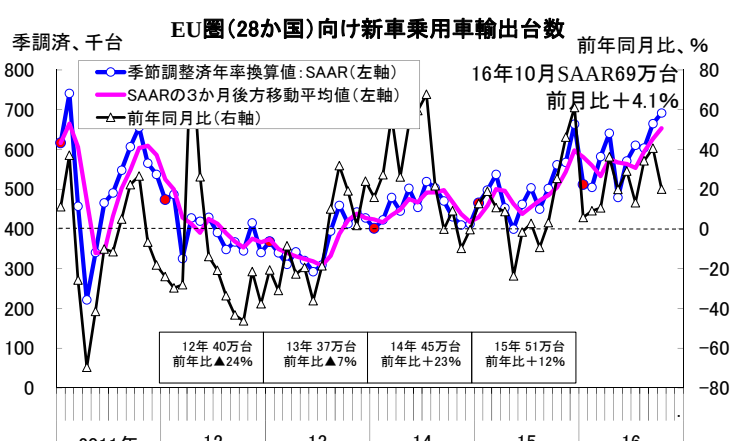


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

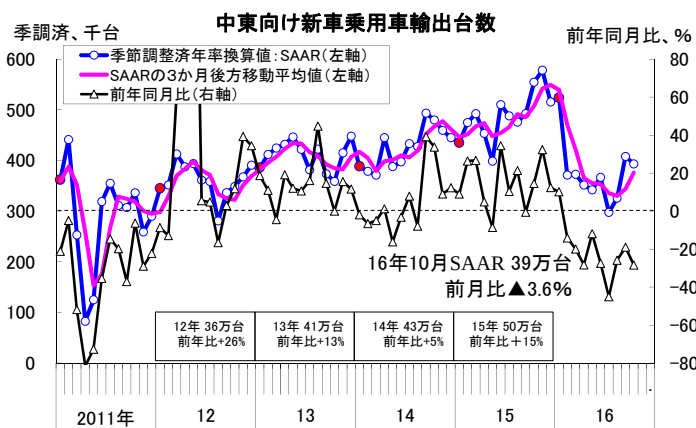


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

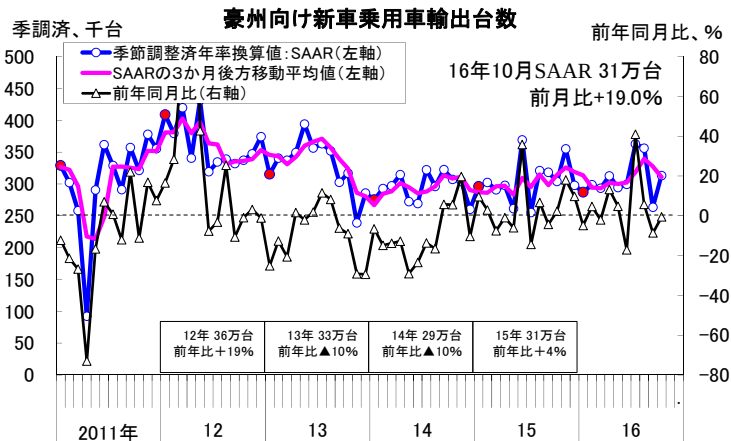


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

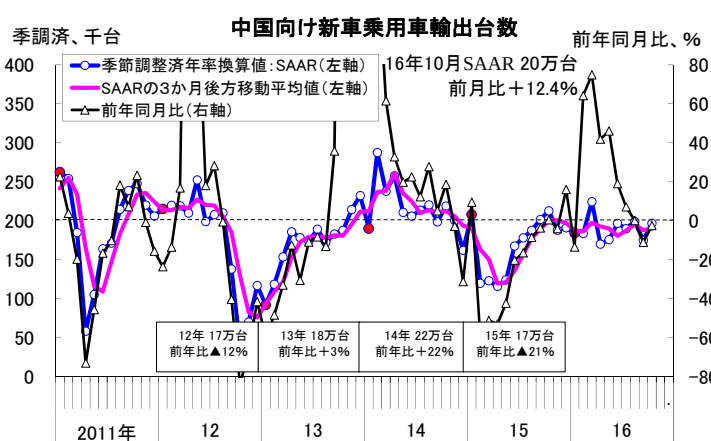


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

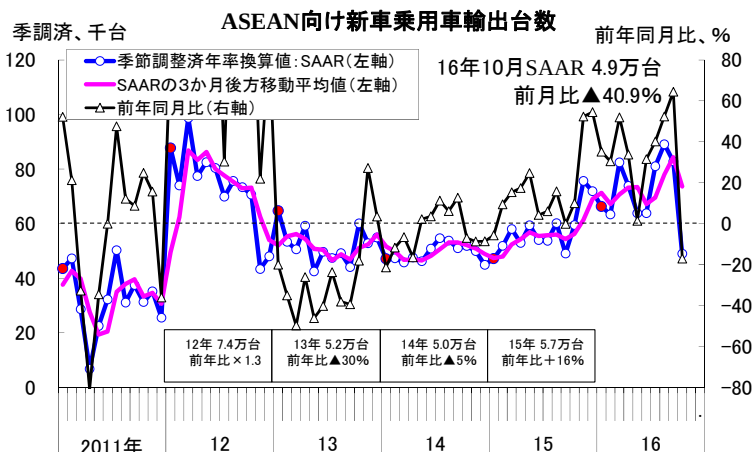


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成



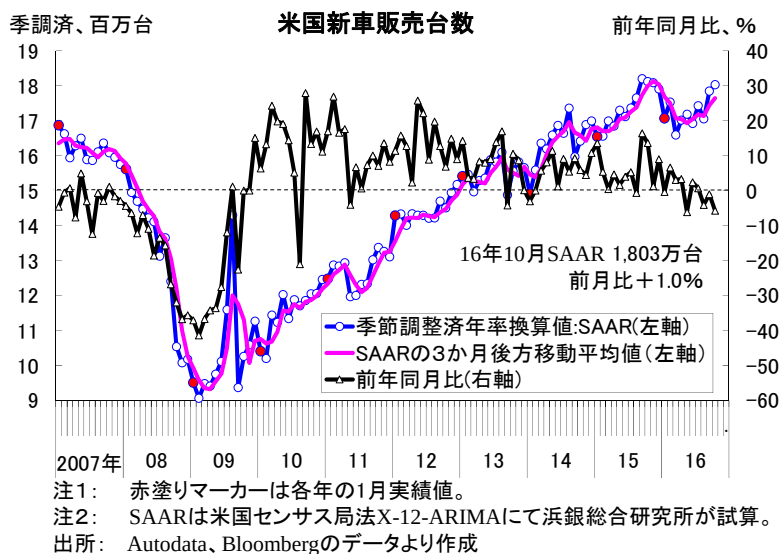
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: ノックダウンを除く。

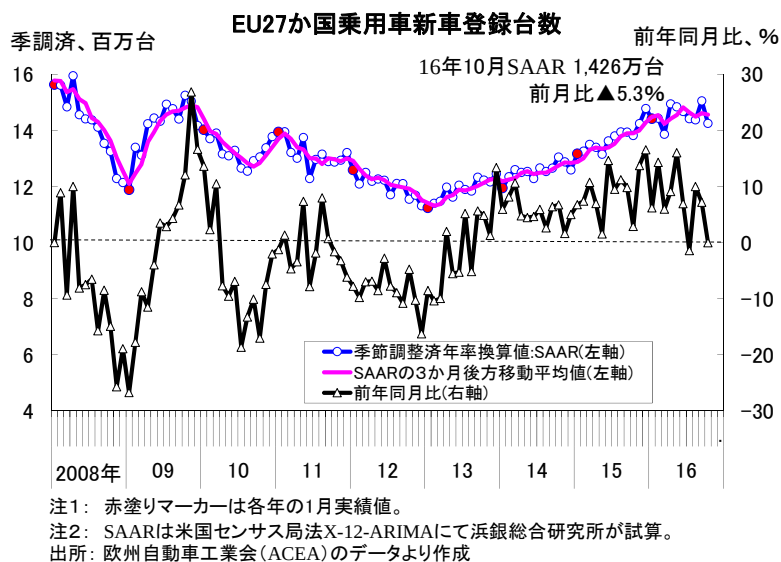
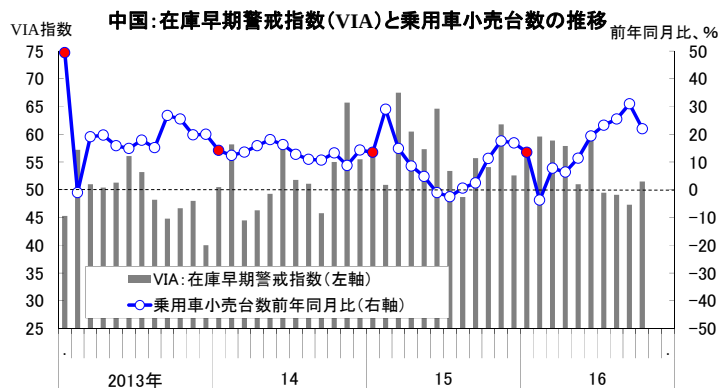
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

図表 14 米国新車販売は2か月連続の増加

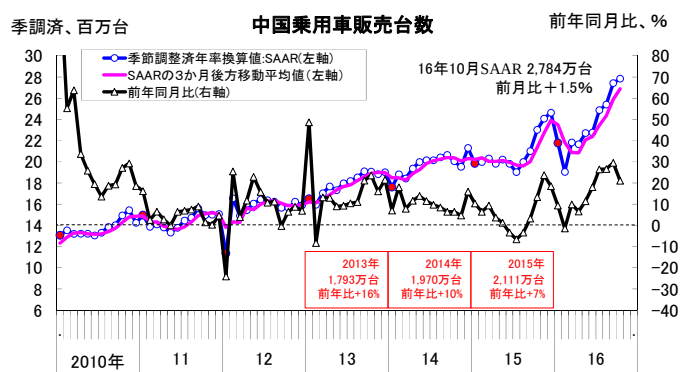


図表 15 欧州の販売は上昇力に欠ける展開が続く

図表 16 中国の乗用車小売販売の伸びが鈍化
流通在庫に過剰感

注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: 乗用車小売台数は微型バン(軽自動車バン)を除く。
注3: VIAは50を下回る場合がディーラーでの在庫水準が適正、50を上回る場合が在庫過多。
出所: 中国汽流通協会(CADA)、全国乗用車市場信息連席会(CPCA)データより浜銀総合研究所作成

図表 17 中国乗用車販売は増加基調が続く



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: 工場出荷ベース。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 中国汽工業協会(CAAM)のデータより作成

4. 中古乗用車輸出市場に底打ち感：ロシア市場に持ち直しの兆し

国内流通業者に注目されている中古乗用車の輸出市場に目を向けると、10月の中古車輸出台数は前年同月比6.4%減と8か月連続の前年割れとなったが、SAARは前月比5.6%増の96万台と2か月連続の増加となった。トレンドをみると、3か月後方移動平均値は9か月ぶりに増加し、長らく底の見えない状況が続いていた中古車輸出台数に底打ち感が始まっている（図表18）。同月の中古乗用車の輸出金額は前年同月比26.9%減と8か月連続の大幅減となり、中古車輸出市場を取り巻く環境は引き続き厳しい状況が続いているが（図表19）、台数面で持ち直しの動きが始まっていることは明るい材料である。

10月の中古乗用車輸出台数を仕向地別で見ると、アフリカ向けとロシア向けの輸出が増加した（図表20）。輸出価格に目を向けると、全世界向け中古乗用車のFOB平均価格は軟調に推移している。台数ベースで最大の仕向先であるアフリカ地域向け中古乗用車のFOB平均価格は7月（37.0万円）に大きく値崩れしたが、その後の8月、9月の平均価格は底這い推移となっており、収益性を犠牲にした激しい価格競争が収まっている様子は統計からは見受けられない（図表21）。

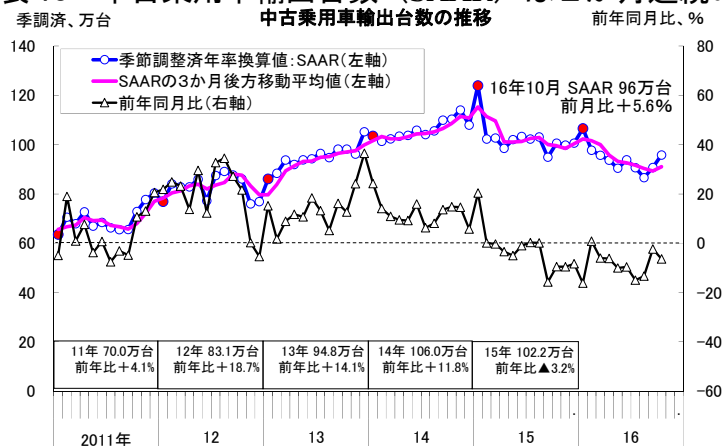
一方、ロシア向け中古乗用車の10月のFOB平均価格は前月比5.3%上昇の46.1万円となった。前年同月比では4%の下落となったが、2015年1月以降に2桁%の下落が続いていた同価格は9月から1桁%の下落に収まっており、同国市場に持ち直しの兆しが出ている。市況に底打ち感がでているロシア向け中古車輸出市場は、資源安と通貨安のダブルパンチで長らく不況に陥っていたが、買い控えする期間も長かったことから、ようやく買い替え需要が盛り返してきたか、市場低迷が続くアフリカ向けSUVの輸出が同様の車種を好むロシア向けへと仕向け地をシフトしていることが背景にあると推測する。

中古車流通業者の間で高成長市場として注目されてきたスリランカ向けの10月の輸出台数（SAAR）は前月比25.5%増の2.2万台となった（図表22）。低水準が続くが、ここから更に底割れする状況ではない。5月27日に輸入自動車に対する関税が見直され、多くの主要輸入車種の関税が再度引き上げとなった中、中古軽乗用車の関税は引き下げられたことで輸出台数は増加し続けていたが、足元の基調は軟調だ（図表23）。現地通貨安やマクロ景気悪化といった逆風に抗しきれなくなっていると考える。

スリランカに代わって高単価車両の輸出先として期待されているシンガポール向けの10月の輸出台数（SAAR）は、前月比32.1%減の1.5万台と4か月連続の減少となった（図表24）。同国では自動車所有権証（COE: Certificate of Entitlement）の発行数が増加しており、自動車の買い替え需要が盛り上がっていたが^{（注）}、マクロ景気の悪化が足かせとなり、年初は大きく増加したものの、足元では減少トレンドが続いている。

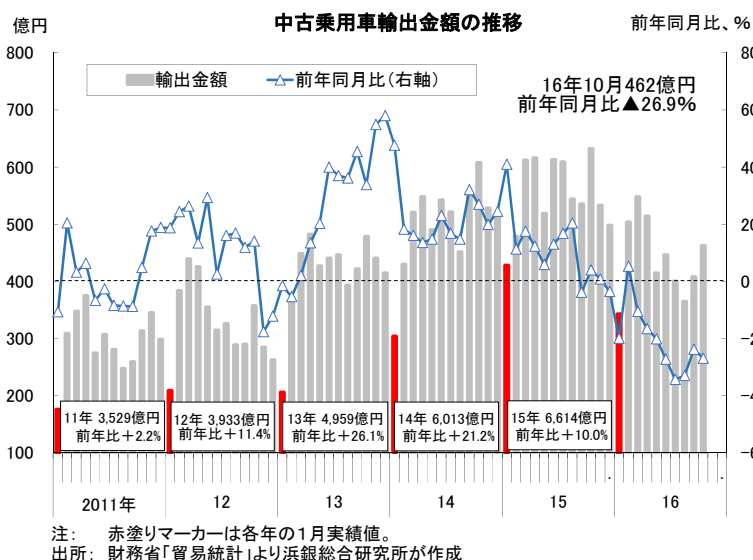
（注）COEの詳細及び買い替え需要発生との関係性は、下記リンク先の「国内新車販売統計（2016年2月）」ページ10～11を参照されたい。<https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/shinshal602.pdf>

図表18 中古乗用車輸出台数（SAAR）は2か月連続の増加

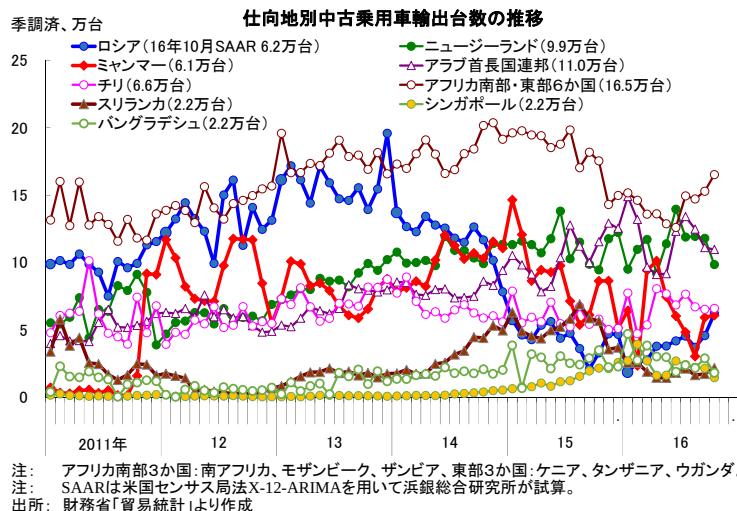


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米国センサス局X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 財務省「貿易統計」より作成

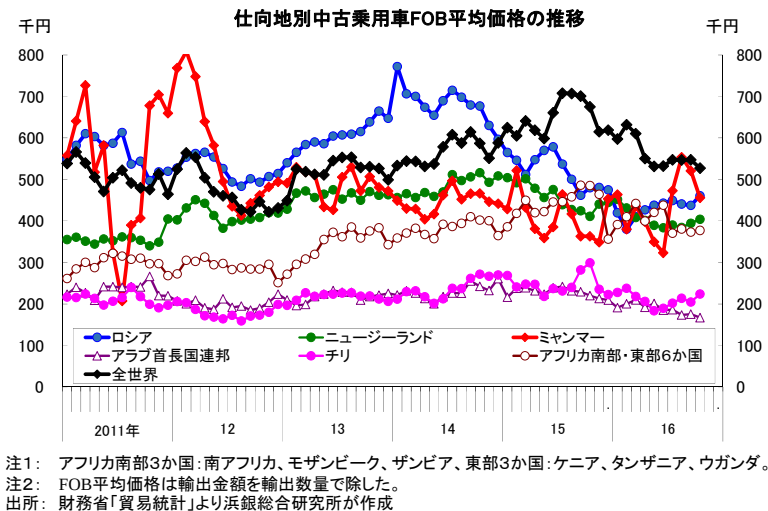
図表 19 中古乗用車輸出金額は8か月連続の前年割れで厳しさ続く



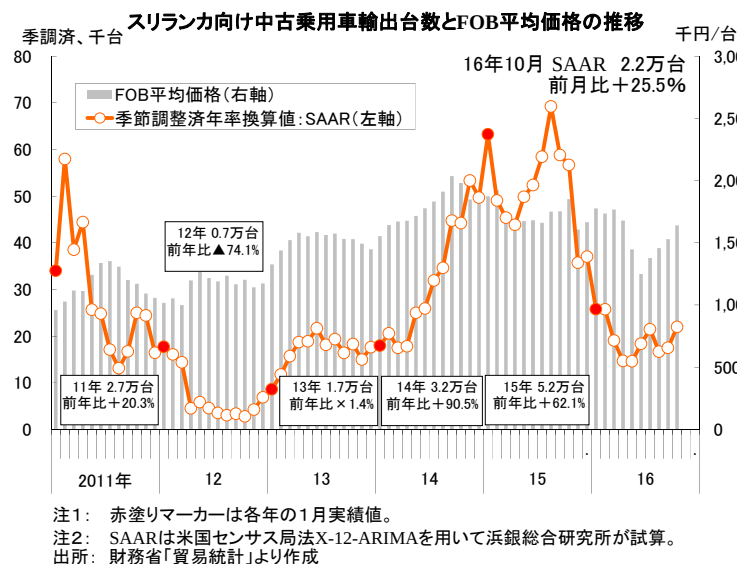
図表 20 アフリカとロシア向け輸出が伸長



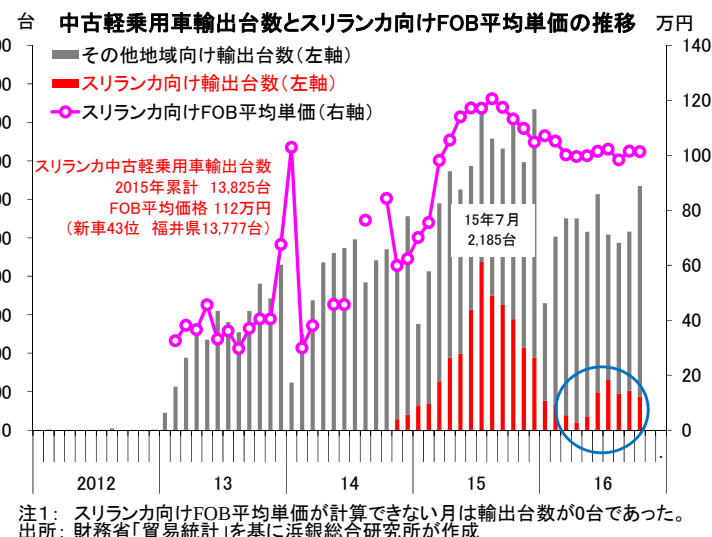
図表 21 アフリカ向けで激しい価格競争が続く



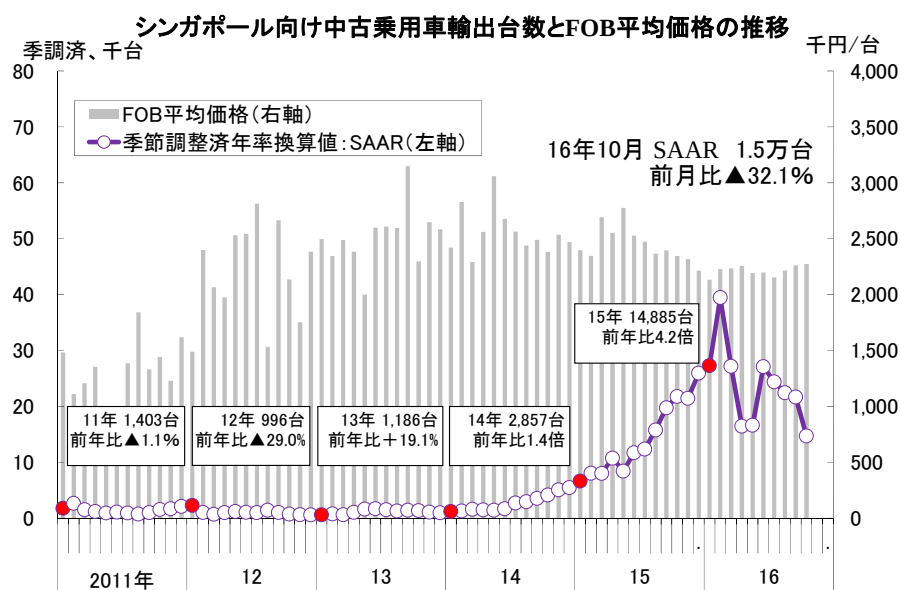
図表 22 スリランカ向けは低水準が続くが底割れする状況ではない



図表 23 スリランカ向け中古軽乗用車輸出は軟調推移



図表 24 シンガポール向け輸出（SAAR）は4か月連続の減少



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。